

【南毛利南地区】令和5年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和5年8月26日(土) 午後6時35分～午後7時30分  
 会 場: 愛甲公民館 1階集会室  
 地区の自治会長(11名)、公民館地区館長  
 市長、副市長、教育長、政策部長、市長室長、地区市民センター所長

自治会長からの意見	市長等からの回答
<p><b>意見1 コミュニティ交通と高齢者の移動について</b></p> <p>【船子自治会】                      ■高齢者が求めているものは、目的地までの送迎、公共交通の充実です。                      高齢者が地域で自立して日常生活を送るためには、移動手段の確保が最大の課題であると感じています。                      買い物や通院などの移動支援が充実していくと、高齢者は安心して地域で暮らしていくことができます。                      誰もが住みやすいまちづくりを推進していくためには、鉄道や路線バス等の既存の交通サービスが行き届きにくいエリアにおいて、コミュニティバスの導入の検討など、高齢者のことを考えた施策を進めていただきたいと思います。</p>	<p>■コミュニティ交通の導入については、路線バスが利用しづらい地域、いわゆる公共交通不便地域の高齢化率や住宅の密度、スーパーや医療機関などの立地状況、地域移動ニーズなどを十分に把握した上で、定時定路線型やタクシー運賃助成など、その地域の特性に合った運行システムを検討していくこととしています。地域の特性に合った移動手段となるよう、地域の皆さんと十分に協議して進めていくということが前提としてあります。</p> <p>■船子地域については、比較的、路線バスが充実し、スーパーなどの商業施設や総合病院も立地していることから、既存の路線バスを利用していただきながら、助成を拡充する「かなちゃん手形」や高齢者タクシーチケットなどを大いに活用していただきたいと思います。</p> <p>拡充した内容で実際に皆さんに御利用していただく中で、使い勝手等について御意見がありましたら改善をしていきます。</p>
<p><b>意見2 コミュニティ交通と高齢者の移動について</b></p> <p>【上愛甲自治会】                      ■上愛甲エリアは地区内に坂があり移動するのが大変です。それに加えて、以前は本厚木駅行きのバスがありましたが、現在は本厚木駅までの直通バスがなく、電車と併用する必要があり不便な状況です。バス事業者に直通バスの運行などを働きかけていただきたいと思います。                      また、近隣にスーパー等がなく、食料品等の日用品の買い物が非常に大変です。コミュニティ交通の充実については、特に期待をしています。                      高齢者の中には、外出自体が困難な方もいられます。そういった方々に対しての買い物などの家事支援の充実もさらに図っていただきたいと思います。</p>	<p>■上愛甲エリアから本厚木駅へのバス路線については、過去に「ぐみだ」を経由した(厚木71伊勢原73系統の)路線バスが平成12年頃まで運行されていたことは承知しています。地域から御要望があることは、バス事業者にお伝えさせていただきま。</p> <p>また、外出自体が困難で、買い物などの家事支援等でお困りの方については、まずは、介護サービスなどが受けられる場合もありますので、地域にある「地域包括支援センター」に御相談いただきたいと思います。地域包括支援センターでは、介護や福祉、医療、生活に関するさまざまな相談を受けとめ、必要なサービスや制度につないでいきます。</p> <p>■荻野地区で運行しているコミュニティ交通「ココモ」については、地域が運営する協議会や関係者の御尽力により、利用者も着実に増加しています。                      コミュニティ交通を効率的な運行とするためには、目的地や運行ルートなど、地域特性に応じたものとして取り組むことが大切です。そのためには、アンケート調査などの十分な事前準備をはじめ、地域の移動実態を良く理解すること、地域の皆さんが主体的に取り組んでいただけることも重要です。                      また、持続可能という部分においては、単なる移動手段としてのみならず、コミュニティ交通を通じて、バスに乗り合うことで友達ができるとか、会話ができるなど、新たな地域コミュニティが創出され、地域に根付いたものとしていくことも重要な要素となります。</p>
<p><b>意見3 コミュニティ交通について</b></p> <p>【愛甲原自治会】                      ■コミュニティ交通のもともとの考え方は、既存のバス路線では対応できないニーズに対応し、地域の実情に応じた生活の足を担う公共交通として、地域、運行事業者、市が互いに連携、協力しながら運行するバスのことになると思います。                      厚木市では、鳶尾地区で「ココモ」が実証運行されていますが、その結果と今後の予定はどのようなものでしょうか。高齢者が増加していく中、継続的に進めていただきたいと思います。                      コミュニティ交通をさらに継続的に広げようとしても、採算性や運転手不足などの問題が生じると考えます。                      今後、ますます高齢化が進み運転免許証を返納する方も増えていくなかで、具体的にどのような手法を考えられているのでしょうか。</p>	<p>先日、コミュニティ交通を運営している方と意見交換をさせていただいたところ、地域に根付いたものとして継続していくためには、やはり、地域の皆さんの御協力、人材が重要であるとお話を伺いました。それに伴って、行政も必要な支援をさせていただきます。</p> <p>コミュニティバスの運行が難しい地域もあるわけですが、ここで助成を拡充した「かなちゃん手形」や高齢者タクシーチケットによってカバーされる部分もありますので、まずは御活用願います。実際に利用してみて、改めて、地域の実情に合ったものとしていくために御意見をいただければと思います。</p> <p>(担当課: 地域包括ケア推進課、都市計画課)</p>

**意見4 安心して暮らせる防犯のまちについて**

**【坊中第2自治会】**  
■安心して暮らせる防犯のまちに向けて、自治会においても防犯パトロールなどを実施していますが、公共施設や子どもたちが遊ぶ公園、通学路、通勤路などに「防犯カメラ設置」という看板を、もう少し目立つように、そして多く設置していただくと、より防犯の一助になります。  
行政と住民が一体となって、安心して暮らせる環境づくりを行っていきべきだと考えますがいかがでしょうか。

**【市長】**  
■自治会におかれましては、日頃、目配り、気配りをいただきながら、子どもたちの通学路の見守りや防犯パトロールを実施していただき、改めて感謝し御礼申し上げます。  
防犯カメラについては、市や団体等が設置しているところですが、「防犯カメラ設置」という看板にも抑止力があるのではないかと、ということで御意見をいただきました。  
防犯カメラの設置についてはそれなりに費用が掛かかりますが、看板の設置については、ある程度安価に対応ができるものであります。防犯カメラ設置の効果を高めるためにも、看板を目立つように多く設置することは、私自身も有効だと思うところですので、看板設置により防犯カメラの抑止力を高めるといった取組もしっかりとさせていただきます。  
なお、新たに防犯カメラを設置するということがあれば、1台当たり27万円を上限に、県と市で設置費の9割を補助しておりますので、御相談いただきますようお願いいたします。

(担当課:セーフコミュニティくらし安全課)

**意見5 スポーツ広場について**

**【坊中自治会】**  
■身近にあるスポーツ広場は様々な場面で活用されており、地域にとっても非常に大切な場所です。  
しかし、土地所有者の意向により消失してしまうスポーツ広場があることも事実であり残念なことだと思います。  
将来にわたって継続的に活用できるよう、廃止となったスポーツ広場の代替施設を設置していただければ幸いです。

■今まで地域にあるスポーツ広場で、親子や子どもたちがキャッチボールをしたり、地域の方が運動をしたりするなど、身近な広場として活用されている場面を各地域においてたくさん見させていただいてきたところです。  
そういった広場がなくなってしまうのは残念に思いますが、なかなか代替の場所が見つからないというのが現状です。  
地域において代替地がありましたら情報をお寄せいただき、地域の均衡を図りながら適切な配置を検討していきます。

(担当課:スポーツ推進課)

**意見6 子育て世代の定住・移住促進策について**

**【パークハイツ本厚木自治会】**  
■子育て支援策については、長期的に今後も子どもを増やしていくための支援、施策が必要なのではないかと思えます。  
厚木市に子育て世代が移住してもらえるように子育て支援策を実施していると思えますが、現状の支援策は他の自治体でも実施しているものです。  
魅力がないわけではありませんが、より厚木に住みたいと思っていただけるような厚木ならではの施策が必要ではないでしょうか。

■子育て支援の拡充については、市においても大変重要な取組として位置付けており、私自身の政治活動やライフワークとしても積極的に取り組んできたところで、ハードからソフトまで取組を前に進めていかなければならないと考えています。  
子育て環境の充実に当たりましては、これまでも、子育て支援センターなど気軽な相談の場の設置や子どもの送迎などのサポート、紙おむつ等の宅配など、様々な子育て支援を展開しており、一定の評価をいただいています。  
また、子育て世代の定住や移住につなげる取組として、子育て中の若年世帯が住宅を取得する際の補助金もありますので、子育て世代に理解していただきながら、定住・移住につなげてまいりたいと思えますが、やはり、同じような子育て政策をしていても、ブランディングや発信力によって、魅力的に映る映らないといったことがあります。  
今後についても子育て政策をより一層充実させていくとともに、これだけある子育て施策をまちの魅力の一つとして、マスコミやテレビ等も活用しながら、子育て世代をターゲットに、市の魅力を発信する取組も強化していきます。  
子育ては厚木に限る、子育てで選ばれるまちあつぎを目指していきますので、子育て環境の充実について、新たなアイデア等がありましたらお寄せいただきますようお願いいたします。

(担当課:こども育成課、住宅課)